



【危機の時代を乗り越える神の御言葉】

聖書本文:エレミヤ書36章1-16・20-32節/暗唱:ヘブル人への手紙(Hebrew)4章12節

説教者: 鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん！一週間もお元気でしたか。今週一週間は特に秋雨で大分朝晩涼しくなりました。一日中の温度差が激しいこの季節の変わり目の時にぜひみなさんも体調崩さないようにお体を大事にしてください。

BC609年、イスラエルの南ユダの王国、ヨシヤの子エホヤキムが王の時、神は預言者エレミヤを通してみことばを告げられました。神の民が罪によってわざわいを受けることを願われなかったからです。彼らが主のことばに聞き従い、悔い改めるなら、神は災いを下すことを思い直される(26:13)と言われ、エレミヤはエルサレムの主の宮の庭に立ち、ユダの民に向かって、彼らの不従順によって主の宮がもうすぐ破壊され、町が廢墟となるという主の厳しいことばを具体的に告げ、悔い改めを促しました。しかし、これにより、エレミヤは当時、王様から始め、宗教指導者たちから脅かされ、多くの苦難を受けられたことが分かります。

先週には、それでエレミヤがそれ以上イスラエルの民に神の御言葉を宣べ伝えられないように、自由に神の働きが出来ないように監禁されていた時、バビロンによって、さらにイスラエルの南ユダの王国の陥落が近づいて来ている危機の時であっても、神様は相変わらず、頑なな心で相変わらず神の御言葉を聞き従わず、守り行わないご自分の民を諦めませんでした。神が最後まで彼らの罪が赦され、訪れる危機を乗り越える道を備えて下さいました。

先週には、エレミヤ書33章までの御言葉を通して、事を始め、完成される主である神様は、エレミヤに、神にへりくだり祈ると、必ず彼の理解を超えた大いなることを持って答えて下さることを約束されたことが分かりました(エレミヤ書33章3節)。神様は、ご自分を信じる民の罪を懲らしめますが、神に立ち返って、心から罪を認め告白し、悔い改める全ての人々は、赦され、捕囚の地から帰らせ、エルサレムを立て直され、再建されたエルサレムで、神が与えて下さる祝福と平安を味わい、安らかに住める、永遠の変わらない御約束を表して下さいましたことが分かります。

すでに滅亡した北イスラエルと、間もなく滅亡する南ユダに、望みを与える約束のみことばでした。

神はどんな罪を犯した人であっても、神を信じる民を顧みて、愛され、絶えず不幸の道から、幸いの道、その正しい道を歩むことが出来るように、絶えず教えてくださいます。

今日の本文では、エホヤキムが王になった、第4年(BC605年)に、監禁され閉じ込め続けられていた神の預言者エレミヤに神は今まで語ったすべてのお言葉を、書記官バルクを読んで、巻物に書き記すように、命じられました。(本文1-2節)エレミヤ書がどうやって書き記され残されたのかが今日の本文で分かります。

<1. 神の御言葉を与えて下さった理由>

①悔い改め、人生を新たに立て直すことが出来るようにする為

10節を見ると、神の御言葉が全て書き記されてから、記録した書記官バルクが、エレミヤの代わりに神の宮に入り、その書物を読み伝えました。「そのときバルクは、主の宮で民全体に聞こえるように、その書物からエレミヤのことばを読んだ。」

なぜ、どうして神様はそこまで命じられたのでしょうか。

もう、神の御言葉を聞きたくないで心閉ざしていた民たちが、エレミヤを監禁させていたのにも関わらず(本文5節)、神様はご自分の民を諦めませんでした！神様は、ユダの全神の家族が自分たちの罪を悔い改めさせ、その罪が赦されるように、あきらめない自分たちの罪によって襲って来るこれからの神のわざわいから逃れられるように、御言葉書き記させ、すべての人々にそれを読み聞かせようとしたことが

分かります。(6節)

* 3節:「ユダの家は、わたしが彼らに下そうと思っているすべてのわざわいを聞いて、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。そうすれば、わたしも、彼らの咎と罪とを赦すことができる。」

我らも、よわさや過ち、あるいは自分の罪のため試みに陥られてしまったり、苦しんでしまう時もあるでしょう。しかし、どうやってその窮地(きゆうち)から抜け出すことができるでしょうか。そのとき、人に必要とされるのが神の御言葉であることを聖書がイエス様の弟子だったペテロの過ちの中で、悔い改め、人生を新たにすることが出来たのか詳しく聖書に残して下さっています。イエス様の12人の弟子たち中一番熱心だったペテロでしたが、イエス様をそむき、三度否定し、最後にはイエス様を呪っていた彼が、どうやって悔い改めることができ、人生をやり直すことができたのでしょうか。イエス様が言われた御言葉を心に留め、また思い出したからです。

ルカの福音書22章61-62節を見てみてください。

[主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言います。」と言われた主のおことばを思い出した。そして、外に出て行って、激しく泣いた。]

何がペテロを悔い改めの座に導きましたか。主の御言葉です。イエス様のおことばを思い出したのです。誘惑に失敗しても、戦いに倒れたとしても自分の中で思い出せる、自分が捕まえる主の御言葉があれば、主の御言葉が、我らを悔い改めに導き、また立ち上がれるように、励まし、支え、強めて下さいます！

しかし、ふだん、御言葉を自分の心と思いの中に蓄えておかなければ、どうやってその言葉を思い出せるのでしょうか。ヨハネの福音書14章26節の御言葉のように、「…わたしがあなたがたに話したすべてのこと(神の御言葉)を思い起こさせてくださいます。」そういうわけで、普段みなさんが読み続け、黙想し続け、聞いて来た聖書の御言葉が自分の思いと心の中に留まらせ、保っているかどうか大切なのです。

一瞬高慢と怠慢になってしまい、姦淫の罪、部下を殺してしまった罪の中で生まれた子供がなくなり、様々な人生の激しい戦いの中で、何度も人生の危機に直面していたダビデ王が、完全に倒れてしまわないで、また立ち上がり、新たに人生として立て直し、最後まで神に大いに用いられた理由について、詩篇の119篇にはこう告白し、証ししています。詩篇119篇92-93節「もしあなたのみおしえが私の喜びでなかったら、それなら私の苦しみの中で滅んだでしょう。私は決してあなたの戒めを忘れません。それによって、あなたが私を生かしてくださったからです。」

ダビデがどれほど、神の御教え、主の御言葉を愛していたのか、一日中自分の思いとなっていたと証ししています。詩篇119篇97節「どんなにか私は、あなたのみおしえを愛していることでしょう。これがいつも私の思いとなっています。」

そのため、神様の御言葉を忘れなかった為、今まで自分が生かされ滅ばされなかったと告白しています。詩篇119篇141-144節「私は取るに足りない者で、さげすまれています。しかし、あなたの戒めを忘れてはいません。142あなたの義は、永遠の義、あなたのみおしえは、まことです。143苦難と窮乏(きゆうぼう)が私に襲いかかっています。しかしあなたの仰せは、私の喜びです。144あなたのさとしは、永遠に義です。私に悟らせ、私を生かしてください。」人生の中、どんなに試練が襲っても、主の御言葉を愛し、忘れず、頼っていたので、どんな苦しみと艱難の中でも人生そのものが揺るがず、与えられた日々を喜ぶことができましたと証ししています。

②神の御心すべてが成し遂げられる為

聖書の御言葉自体が神様の御心の啓示です。ですから、御言葉を近くに置き、聖書の御言葉親しく読み、黙想すれば我々の人生の中にも神様の御心がすべて成し遂げられるようにさせる神の御心であり、神の力なのです。イザヤ預言者はあらかじめ、主の御言葉に対してこう言いました。

「そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それはわたしが望むことが成し遂げ、わたしの言い送ったことを成功させる。」(イザヤ書55章11節)

神の御子イエス様はご自身も、すでに記されていた旧約聖書の御言葉を66回引用され、90回以上旧約聖書の御言葉を用いて下さったことが分かります。つまり、神であられ、神の御子であられるイエスキリストさえも、この地上でいらっしゃった時に御言葉から離れず、その御言葉を用いて、いつも父なる神のご計画と御心全てが地上で全うされるように用いて下さいました。そして、最後の十字架の上までも神の御言葉がすべて成就され全うされるように行って下さった事が分かります。

「3時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。(マタイ27:46)」

実は、これは本来旧約の詩篇の22篇1節の御言葉を引用されたのです。そして、「イエスは大声で叫ばれた。「父よ。わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。(ルカ23:46)」このイエス様のお言葉も詩篇31篇5節の御言葉を引用されたことが分かります。イエス様はまさに一番の苦しみのその瞬間、一番大切なその十字架の上で父なる神の救いの御業と御心が全てなされるように、神の御言葉を覚えて、父なる神の御言葉従っていらっしゃったイエス様の模範の姿を見る事が出来ます。イエス様は御言葉を覚えながら、十字架での苦しみを耐え、ついに贖いの救いの御業をはたされ、「すべてが全うされた」と十字架の上で宣言されたならば、我々も人生の中でも、我が家庭の中でも、子供たちの将来の中でも、神の御心が全てなされ、成し遂げられてほしいと願うならば、神の御言葉から離れてはなりません！神の御言葉こそ、我々の人生の中でも、神の御心と御業が成し遂げられる神の道であり、神の御力であることを覚えて頂きたいと思います。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ テモテ人への手紙第3章15-17節にこう書いてあります。「15また、幼いころから聖書に親しんできたことも知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。16聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。17神の人が、すべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。」と書かれています。

神様の御言葉のみが私たちの人生を正しく教え導き、神の戒めを通して我らの行動を注意させ、守らせます。そして、自分の間違っている所、悪い所を矯正させ、新たに我らの人生と生き方を変えて下さいます。そして、御言葉が我らの義の訓練となり、キリストの似た者となるようにさせるもの(エペソ人への手紙4章15節)であることが分かります。それによって、ついにあらゆる面において、私たちを成熟と成長をともなして、我々に向う神の素晴らしい計画と御心すべてが成し遂げられるように、そのため我ら一人一人がそのふさわしい働きができるように私たちを十分に整えさせて下さると神様は約束されています。

願わくは、新しく始まる10月と残りの今年の後3ヵ月にも、神様のご計画と御心すべてが自分の人生の中で、家庭の中で、主の教会の中で、かなえられることを望んでいる方々は、主の御言葉に親しんでいなければなりません。

<2. 神の御言葉に対する反応:①神の御言葉を恐れ、聞き従う人の反応>

すべての民がエレミヤ書の書き記された御言葉を聞かせましたが、神の御言葉を聞いた人々の反応はそれぞれだったことが分かります。神の御言葉に心を開き、聞く耳を持って悔い改め、神様に立ち返って、今までの行動と生き方が劇的に変わった人々もいれば、正反対に反応する人々もいました。

今日の本文の14節-16節で、南ユダの町々の首長たちの反応が出ます。彼らは、一度だけではなく、また書記官バルクを再び呼んで、神の御言葉を読ませ聞いているうちに、首長たちの心に驚きと恐れが満ちました。そして、神の御言葉に恐れを持って受け入れた主張たちの行動に変化が起こります。以前、エレミヤを疑い、攻撃し、神の御言葉をずっと無視して来た首長たちが、神の御言葉聞きながら、心から悔い改めたためながら、いのちをかけながらも、エレミヤとバルクをかかまい、神の御言葉が書かれた聖書の巻物を王様にまで伝えることになりました。

「14「あなたが民に読んで聞かせたあの巻物、あれを手に持って来なさい。」そこで、ネリヤの子バルク

は、巻物を手に持って彼らのところには行って来た。16そのすべてのことばを聞いたとき、彼らがみな互いに恐れおののき、バルクに言った。「私たちは、これらのことばをすべて、必ず王に告げなければならぬ。」

神の御言葉は生きていて力があり、聞く人の心を動かし、行動に影響を与え、人生を変える神の御力なのです。200年前、ノルウェーはとても貧しい国でした。国中のあちらこちらで人々が倒れて飢え死にし、文字を読めない人がたくさんいました。学校も足りず、大学もなく、政府の許可なしに自由に旅行することもできませんでした。そんなノルウェー国が祝福され、今日世界でも指折りの豊かな福祉先進国となったのは、この国に御言葉を黙想し、守り行った指導者がいたからです。彼の名はハンス・ニールセン・ハウゲです。彼は貧しい農夫の息子として生まれ、ある日プレゼントとしてもらった聖書を読むために文字を勉強しました。彼は聖書を読んでいるうち「イエスキリストは私の罪のため十字架で死なれた。」と悟られ信じました。その後彼はノルウェー全域を巡りながら聖書を伝えました。当時、ノルウェーに1000を超える聖書の学びグループができほど、リバイバルが起されると、嫉妬する当時既得権をもった高い地位の人々や聖職者らから迫害を受け、10年間投獄されたりし、結局53歳に神のみもとへ召されるまで、彼は神の御言葉聖書を伝え続けた生涯でした。彼は「神の御言葉こそ、この世のどんな物よりも尊く、きよい宝物だ」という有名な言葉を残しました。

愛する信仰の家族のみなさん！人生の危機の時、人と人生の劇的な変化の中心には、いつも神の御言葉があります！神の御言葉を真剣に聞き従って、神に立ち返るなら、神はその人のどんな罪であっても全ての罪を赦して下さいます。神の御言葉に従うなら、どんなわざわいが来ても、私たちの人生は決して崩れません！ですから、聖書は神からの人への最高の宝物と祝福の源です。神の御言葉を聞き従うすべての人を変え、人生の家を堅く築ける神の永遠の岩なのです。

<②神の御言葉を聞いても逆らう人の反応>

ところが、神の御言葉を聞いても、真剣に聞き従い、赦され恵まれ、新たに人生が変わった人もいれば、いくら神の御言葉をただ、聞き流し、無視する人も、むしろ、神の御言葉と神に対してさらに敵対し、反抗する人の反応もあります。今日の本文の後半の当時エホヤキム王がまさにそうでした。首長たちがいのちをかけて、王と国の為に、持って来た、エレミヤ書の神の御言葉に対し、エホヤキム王は、その巻物の御言葉をきくたびに、それを裂いて、火に投げ入れ、それを書き記したバルクとエレミヤを捕え、殺そうと命じていたことが分かります。

23-24節「23中：王は書記の小刀でそれを裂いては、暖炉の火に投げ入れ、ついに、暖炉の火で巻物全部を焼き尽くした。24これらのすべてのことばを聞いた王も、彼のすべての家来たちも、だれ一人恐れおののくことはなく、衣を 引き裂くこともしなかった。」

もちろん、エホヤキム王は神の御言葉を聞いた時に、まったく嬉しくなかったかも知れません。自分たちの罪とユダの国の厳しい裁き、バビロンによるユダの滅亡についての警告のメッセージの内容が多く記されていたからです。なので、彼らは、不快に思ったエホヤキム王は、神の巻物聖書を小刀(こがたな)で裂き、すべて目の前にある暖炉(だんろ)の火に投げ入れ焼き尽くしてしまいました！！以前の例え、ヨシヤ王預言者を通して神の御言葉を聞いた時に、衣を裂きました。衣を裂くというのは、聞いた神の御言葉に対して悔い改め、神に立ち返ったという表しであります。しかし、今のエホヤキム王は、神の御言葉をエレミヤの代わりに伝えた、ウリヤも殺した(26:20-23)ように、神の御言葉を燃やし、この御言葉を書き記したエレミヤと書記官バルクを探し、殺す気で満ちていました！

結局、書き記された神の御言葉をいくら伝えても、どう自分に受け入れ、受け止めるかはみなさん各自の選択にかかっているし、その結果と責任をも自身に与えられています。

愛する信仰の家族のみなさん！結局、神の御言葉を拒み続け、悔い改めず、続けて悪を行っていたエホヤキム王と家族、家来はどうなりましたか。

神の恐ろしい呪いがエホヤキム本人と家族にだけではなく、すべてのエルサレムやユダの人々にまで与

えられます。本文30-31節です。「30それゆえ、主はユダの王エホヤキムについてこう仰せられる。彼には、ダビデの王座に就(つ)く者がいなくなり、彼のしかばねは捨てられて、昼は暑さに、夜は寒さにさらされる。31わたしは、彼とその子孫、その家来たちを、彼らの咎のゆえに罰し、彼らとエルサレムの住民とユダの人々に対して、わたしが彼らに告げたが彼らが聞かなかった、あのすべてのわざわいをもたらす。」

古代近東の王たちは、自分自身を地上に下って来た神だと自称し、自分がまるで神かのような思い通り国や国人を治めました。しかし、イスラエルの王は、神によって立てられた王であり、神のことばに従い、神の代わりに国を治める管理者でした。管理者には、自分の所有する物はありません。エホヤキム王は、そのことを忘れてしまい、自分が神かのように、自分勝手にあきらめないで、行い続けて来た結果、ダビデの王位の祝福の家門から、彼自身も、彼も子孫も外れ、脱落してしまいました。そして、家のすべてを失われただけでなく、エルサレムやユダの全民にも、影響され、結局南ユダ王国は、最後まで神に赦される機会を見逃してしまい、バビロンに滅ぼされてしまいます。イエス様は、こう教えて下さいました。

マタイの福音書7章24-27節です。「ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。25雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。26また、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行なわない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。27雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもその倒れ方はひどいものでした。」

愛する信仰の家族のみなさん！神の御言葉が聞こえる時が、祝福の時ではありませんか。まだ自分の過ちや間違った事を正す機会であり、やり直せる、立て直せる神のから我らの為に、赦されたチャンスの時であることを決して忘れないで下さい。

しかし、いくら神の御言葉聖書何度も聞いても、聖書に書かれている神の約束されたすべての恵みと祝福が自分のものとなるためには、御言葉を謙遜に受け止め、御言葉通り守り行って従う者のみ、体験できることを、どうか一生心に刻み、また、子供たちに教え、覚えさせましょう。その意味として、我らの教会にある「アワナクラブ」はどれほど、大切でしょうか。カビーズの幼稚部から始め、小中、高校、大学生に至るまで、神の御言葉を愛し、覚えさせ、成長していけるよう、仕えて下さっているアワナの先生お一人お一人に心から感謝と尊敬を払います。

今日のエホヤキム王の姿を板面教師(はんめんきょうし)として、受け止めましょう。私たちが聖書を読まず、聞かず、深く考えず、その御言葉通り行わなければ、神の祝福と真理は我らから離れ、すぐ自分の周りの人や環境に流されやすく、倒れやすくなってしまふことを覚え、共に気をつけましょう。神の御言葉を人生の土台とした人はいくら人生の嵐が襲っても、人生の波があるにしても、簡単に流されませんし、決して倒れません！今も我らの手に与えられている神の御言葉なる聖書を一人一人の人生の土台にし、揺るがない人生を一步一步、10月にも勇敢に進み行く、愛するクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように切にお祈り申し上げます！アーメン！！